

『Mind Charging』

第 143 回 発行：入試広報室 発行日：令和 2 年 11 月 2 日

マルティン・ルターの名言



Even if I knew that tomorrow the world would go to pieces, I would still plant my apple tree.

たとえ明日世界が滅亡しようとも、今日私はリンゴの木を植える。

みなさんは、明日世界が滅亡するという情報が入った日をどう過ごしますか？この言葉を知った時に、私は以前大流行した“ノストラダムスの大予言”を思い出しました。“1999年7の月に世界が滅亡する”という予言で非常に話題になり、運命の日はどう過ごすかについて友達と大いに盛り上がったことを覚えています。

世界が滅亡するということは、非常に悲しいことですが『死』を意味します。そんな中、世界滅亡の日を翌日に控えているにも関わらず、尚且つ植えたとしてもそのリンゴの木の命も絶たれ、おいしいリンゴに育つことを見届けることもできないことが決まっている状況で果たして本当にリンゴの木を植えるという心境になれるでしょうか。私は正直自信がありません。

ここで使われている『リンゴの木を植える』という行為は、仕事や人としてより良く生きるということだと思います。例えば難病に苦しんでいる家族に対して、医師が『明日まで生きられない』と言うから看病しないなんてことはあり得ませんよね？テストの時に制限時間が迫ってきているからあと5問残っていても答えられないなんてこともあり得ないと思います。そういう意味で今回の言葉は、逆に『毎日が人生最後の日だと思って常に精一杯生きよう！』というメッセージだと感じました。

人生において、全てに明確なゴールの設定や結果が必要とは思いませんが、日々の積み重ねがあつてこそその人生の充実であることは間違いありません。現在の努力が未来の自分を創っていきます。正智深谷で過ごす時間を素晴らしい未来に繋げていきましょう！（編集委員：入試広報室 鈴木）

マルティン・ルター(Martin Luther [ˈmɑːtɪn ˈlʊtɚ] (音声ファイル)、1483年11月10日 - 1546年2月18日)は、ドイツの神学者、教授、作家、聖職者。聖アウグスチノ修道会に属する。1517年に『95ヶ条の論題』をヴィッテンベルクの教会に掲出したことを発端に、ローマ・カトリック教会から分離しプロテスタントが誕生した宗教改革の中心人物である。

(Wikipedia 参照)